

JSIR NEWS

LETTER

国際リハビリテーション
研究会

【笹田三郎さんの追悼】

2020年5月29日、監事を務められるなど国際リハビリテーション研究会の活動に創設以来ご尽力いただきました、笹田三郎さんが亡くなりました。

本号の「巻頭言」と「特集」は、笹田さんへの追悼を目的に内容を検討させていただきました。

巻頭言では、笹田さんがニュースレターVol.3でご執筆された内容を再掲いたしました。

特集では本研究会の河野眞 代表と大塚進 監事が笹田さんとの出会いや思い出、またそのご活躍などを回想しております。 笹田三郎さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

巻頭言

『障害者の自立支援における客観的評価と

満足度の確立を目指して』

笹田 三郎

スリランカでの視覚障害者自立支援（日本の指圧マッサージ師養成）ですが、その評価は主観的評価に頼りがちでした。新しい考え方として国際リハ研究会立ち上げに触発され、客観的評価と満足度に注目しその概要を3項目で書いてみます。

1. 主観的評価 → 客観的評価

セラピスト養成（人材育成）評価の3本柱は基礎理論、技術、セラピストとしての態度です。理論科目は客観的評価が得やすいが、技術と態度の評価は主観的になりがちです。その客観的評価はどうしたら得られるかが懸案事項です。そこで従来型の評価にとらわれず教員の訓練生評価だけでなく、訓練生からの教員評価、訓練生相互間の評価、訓練生の自己評価を取り入れ客観性を増すことを考えています。



2. 教わる側、教える側、両者の満足度、達成感、幸福の追求

両者の共通点は社会とのつながり、クライアントからの感謝、仲間同士の繋がり。相違点は支援が目的VSお金が目的、上から下への目線VS下から上への目線。不幸をもたらす要因は比較すること、幸福をもたらす要因はpositive thinkingを育てること。

3. 紆余曲折の厳しい数年間を乗り越えてNGOアプカスの指圧マッサージ自立支援は今では順調に発展しています。本年5月、「JICA草の根技術支援」の開始に当たって、停滞しているスリランカ国立訓練所側の自立的、実質的な発展を支援することも課題となっています。

【特集】 ～笹田三郎さんを偲ぶ～

河野 眞（国際リハビリテーション研究会代表、国際医療福祉大学成田保健医療学部）

私が笹田さんを知ったのは東日本大震災の被災者支援活動の中でのことでした。

当時AAR Japan [難民を助ける会] が岩手・宮城・福島の被災3県にセラピストと心理カウンセラーを派遣する活動をしていました。そのセラピスト側の取りまとめを私がやっており、その仕事の中で笹田さんに出会ったのです。

もう10年も前のことなので経緯はおぼろです。笹田さんから私に直接連絡があったのか、AAR経由の連絡だったか。いずれにしても、あん摩鍼灸が専門である笹田さんに、私たち作業療法士や理学療法士と混じって被災地へ行ってもらうことになりました。

私自身が笹田さんと一緒に被災地へ行ったのはたった1回か2回だったと記憶しています。しかし、自分の隣で被災者にマッサージをする笹田さんの動きは、視覚障害にもかかわらずなのか視覚障害だからこそなのかは分かりませんが、とても流麗で、かつ非常に合理的と私の目には映りました。その光景は今も強く印象に残っています。



2011年の年末だったか2012年の新年だったか、AARの震災支援にかかわるセラピストの宴会で、笹田さんに幹事役を務めてもらったこともありました。あれもどういう経緯だったか。いずれにしても、笹田さん紹介の新宿の居酒屋でAARの震災支援にかかわるセラピストが一堂に会しました。白杖を持つ笹田さんの後ろにぞろぞろ並んで思い出横丁を歩きながら、傍からはどういう集団と見えているのだろうと面白く思ったのを覚えています。

その後笹田さんは、JICA草の根事業で視覚障害者支援のためインドに駐在することになり、AARの震災支援を離れて行かれました。定年後の年齢になった視覚障害のある人がインドで単身生活を送ろうとしているということは、自分にとってとても眩しく見えたのを覚えています。

国際リハビリテーション研究会の活動について、笹田さんは当初から関心を寄せてくれました。2017年のキックオフミーティングから参加され、2018年の会発足以降は監事を引き受けていただき、これまですべての学術大会に参加されています。会員の中には、学術大会で活発に議論する笹田さんの姿を覚えている人もいられるかもしれません。

2018年の終わり頃には癌との闘病も聞いていましたが、それまでと変わらぬ活発な活動ぶりでした。2020年3月半ばにもスリランカに渡られ、現地の視覚障害者の支援を行われています。5月末に亡くなられる、ほんの2か月ほどの前のことで、コロナの流行も拡大している状況です。視力障害センターなどで長らく勤務された笹田さんの思いの中心には、最後まで視覚障害者の職業教育があったのだと思います。

生涯を通してライフワークに尽力されたその姿は、私たちのロールモデルになるものだと改めて強く感じています。笹田さんの安らかな眠りを祈りつつ、私たちは今しばらくそれぞれの場所でそれぞれの命を燃やしましょう。

**大塚 進（国際リハビリテーション研究会監事、
「リハビリデイサービス、リスタート」、NPO法人Re-CA）**

私は笹田先生（理療教育の教官だったので先生と呼ばせていただきます）と同じ国立障害者リハビリテーションセンターで仕事をしていましたが（1990年から2003年まで）、私は病院の作業療法室、笹田先生は更生訓練所理療教育部で中途視覚障害者への理療教育をされており、仕事の上での関係はなく、場所も離れていたためお目にかかった記憶はありますが（所沢の街を一人で白杖を持って歩く姿なども）、話したことも有りませんでした。当然、私が国立障害者リハビリセンターを2003年に離れて以降、全く接点はありませんでした。

私が2010年にJICAシニアボランティアでタイへ行く予定だった時、笹田先生がマレーシアでのJICAシニアボランティアを終え、国立障害者リハビリセンターでその報告をされることを知り、聞きに行きました。

私はまだ派遣前訓練も始っておらず、タイへ行くことについては若干の不安もあったのですが、笹田先生のお話を聞き、とても勇気づけられたことを思い出します。ご存知のとおり笹田先生は全盲であり、その活動に当たっては並々ならぬご苦労があったのですが、その苦労話も明るく淡々と語っておられたことがとても印象的でした。笹田先生はマレーシアでのJICAシニアボランティアとしての活動を終えられた後もJICA草の根協力事業やNPOの活動でスリランカ、インドとますます活動の場を拡げられ、途上国の視覚障害者がマッサージの技術を習得して自立につながるよう支援を続けられていました。国際リハビリテーション研究会へ参加された後のご活躍は皆さんもご存知のことと思います。学会やセミナーでの、我々では気づかぬ視点の質問や助言はとても鋭いものでした。歩行が困難になり、車椅子使用になってからも海外での活動を最後まで続けられていたことは、本当に信じられないくらいでした。私たちの国際的活動を今でも暖かく鋭く見守ってくれていると思います。本当にお疲れ様でした。

- <参考>NPO法人アップカスによるスリランカでの活動概要
- ①指圧マッサージセンター「Thusare トゥサーレ」の運営
 - ②医療マッサージセンターの雇用キャパシティ拡大
 - ③教材の充実化
 - ④視覚障がい当事者および家族へのマッサージへの偏見の払拭
 - ⑤視覚障がい者マッサージ師達の労働環境の向上
 - ⑥医療マッサージについて社会に対する情報発信

[連載] **山口高橋の**
研究万華鏡*

国際リハビリテーション研究会ではこれまで3年にわたり3度の学会を開催しました。その中で、「研究に興味はあるが、何をすればよいか分からない」「自身の国際協力の経験について発表したいが、どうすればよいか分からない」といった声がしばしば寄せられています。どうしたら、より多くの方々に発表をしていただけるか。そんな中、事務局・山口佳小里と高橋恵里の思い至ったのが本連載です。

『**リサーチクエスションの精練方法**』

前号の連載にて、研究を進めるためには優れたリサーチクエスション (research question: RQ) が重要であることを紹介しました。今回は、優れたRQに精練する方法として、PE(I)COとFINERの項目を使った整理のしかたとSo-What testを取り上げます。研究したいテーマがおおよそ決まったらPE(I)CO (表) に沿って整理してみましょう。例えば、「A村のダンス習慣と腰痛」をテーマとして取り上げ、ダンス習慣の腰痛発症への影響について調べるとします。この場合、Pは「腰痛がない人」もしくは「腰痛がある人となない人 (一般村民)」、Eは「ダンス習慣があること」、Cは「ダンス習慣がない人」、Oは「腰痛の発症」となります。この項目に沿って整理すると、検討が不足している部分に気付くことができます。その後、FINER (Feasible: 実施可能性, Interesting: 科学的興味深さ, Novel: 新規性, Ethical: 倫理性, Relevant: 必要性) に沿って、研究に必要な要素が満たされているかを確認しましょう。

So-What testではその名の通り、「So what?」「それで?」と研究の意義を問いかけます。「それで?」と自問自答していると、自分が調べたかった内容が明確になってきます。最終的には、端的に『一文で』研究を説明できるとRQが十分に精練されたと言えます。この研究会で知り合った興味分野の似た仲間に『一文で』説明し、自分の意図が伝わるか試してみるといういいですね!

表 PE(I)COによる研究テーマの整理

Participants	参加者	どんな人に
Exposure (Intervention)	曝露・要因 介入	何によって 何をすると
Comparison	比較	何と比べて
Outcome	結果・帰結	どうなるか

[コラム] 大室和也の『世界のめがね』

大室 和也 (国際リハビリテーション研究会、認定NPO法人 AAR Japan [難民を助ける会])

事務局担当の大室理事は佐賀を拠点に世界中で活動を展開中です。このコラムではそんな大室理事のメガネを通した世界の姿を毎月お届けします。

先日、ノーベル平和賞が国連の組織、世界食糧計画(WFP)に与えられるというニュースが入ってきました。私の勤務先であるAARは、これまでWFPと協働しプロジェクトを実施したり、元WFP職員が理事に在籍したりと、同じような目的を掲げた人道支援団体としてこのニュースを喜ばしく受け止めました▼WFPは紛争下にいる人や、災害被災者に対し、食糧配付を迅速かつ大規模に行う組織です。まだ終息をみないCOVID-19拡大に伴い、食糧支援の重要性は増えています。AARも障害のある人を対象にした調査において、感染予防もさることながら、明日あさっての食糧の必要性が高いことを確認し、ミャンマーやパキスタンなどでまとまった量の食糧を配付しました▼医食同源。私も、長期出張の後などには、美味しい食事、食べなれた食事をとると、みるみる元気になるという経験します。開発途上国で活動する国際リハビリテーションの場面でも、食生活についてよく確認することが大事で、まさに「総合的、俯瞰的」な評価がより必要なのだと思います。



ミャンマーでの食糧支援の一例

[お知らせ] 【国際リハビリテーション研究会 第4回学術大会 開催】

2020年11月8日(日)10:00~17:00 オンラインで実施します。

テーマ: 「ニューノーマルと国際リハビリテーション」

参加費: 会員無料、非会員1000円

大会HP: <https://jsircongress-2020.jimdosite.com/>

参加申込フォーム: <https://forms.gle/2cyaT2Zsxzau9aLL8>

是非ご検討いただき、参加をご希望される方は11/3(火)までに
お申込みください!

[学術大会]



[参加申込]



【年会費お支払いのお願い】

2020年度の年会費のお支払いがお済みでない方は、下記の口座まで年会費3000円のご入金をお願いいたします。

銀行名: ゆうちょ銀行 口座名義: 国際リハビリテーション研究会 記号: 10540 番号: 83410731

他金融機関から振り込む場合 店名: 〇五八(ゼロゴハチ) 店番: 058 預金種目: 普通預金 口座番号: 8341073

※振込者名と会員名を同じにしてください。

編集後記

笹田さんのご逝去の報に接し、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、安らかなる旅立ちと、ご冥福を心よりお祈りいたします。(大西 海斗)

「巨人の肩の上に立つ」という言葉がありますが、笹田さんのような方が実践と経験を共有して下さるので、これから国際協力に携わる方が見える景色があるのだと感じます。笹田さんのご冥福をお祈りいたします。(古川 雅一)

事務局 編集担当

高橋 恵里 (東北福祉大学 健康科学部
リハビリテーション学科)
古川 雅一 (仙台医健・スポーツ&こども
専門学校 理学療法科)
大西 海斗 (びわこ学園医療福祉センター
草津)
山口 佳小里 (国際医療福祉大学 成田保健
医療学部 作業療法学科)

【研究会FaceBook】 <https://www.facebook.com/pages/category/Nonprofit-Organization/国際リハビリテーション研究会-1951070205159667/>

【お問い合わせ】 国際リハビリテーション研究会事務局 jsir.office@gmail.com

